

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月10日
【四半期会計期間】	第33期第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	株式会社ハイパー
【英訳名】	HYPER Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 望月 真貴子
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
【電話番号】	03 - 6855 - 8180（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 江守 裕樹
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
【電話番号】	03 - 6855 - 8180（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 江守 裕樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間	自 2021年1月1日 至 2021年6月30日	自 2022年1月1日 至 2022年6月30日	自 2021年1月1日 至 2021年12月31日
売上高 (千円)	10,706,074	5,579,059	20,536,537
経常利益 (千円)	102,073	69,017	36,056
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( ) (千円)	87,162	294,904	53,481
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	87,599	293,049	53,718
純資産額 (千円)	3,549,419	3,024,472	3,363,025
総資産額 (千円)	7,442,124	6,774,953	6,833,067
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額( ) (円)	9.67	30.43	5.72
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	9.44	-	-
自己資本比率 (%)	46.8	43.8	48.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	123,268	266,765	76,607
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	17,161	92,366	83,322
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	376,778	125,869	31,377
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,548,247	2,542,269	3,027,270

回次	第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	0.56	24.20

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 当社は、役員向け株式交付信託制度を導入しております。当制度の導入に伴い、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有している当社株式を、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額( )の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 3 第33期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、親会社株主に帰属する四半期純損失であるため記載しておりません。
- 4 第32期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

- 5 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 6 過年度において不適切な会計処理が行われていたことが判明したため、第32期第2四半期連結累計期間の主要な経営指標等は訂正後の決算数値を記載しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症に関するリスクについては、前事業年度の有価証券報告書の「第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスクの 特に重要なリスク」の項目番号(5)に記載したとおりであり、事業への影響については、引き続き今後の状況を注視してまいります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)財政状態及び経営成績の状況

##### (a)経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況の緩和が進み、経済活動が正常化に向かう中、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していく動きがみられました。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中で原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクなど先行き不透明な要素が見られました。

当社グループが属するコンピュータ販売業界におきましては、国内の販売台数はパソコンの買い替え需要の低迷や企業の設備投資減少による影響を強く受け、市場全体が大幅な縮小傾向で推移いたしました。今年度初頭よりメール経由で拡散するマルウェアの再流行や、サプライチェーンでのランサムウェア攻撃による工場の操業停止などもあり、セキュリティ対策ソリューション関連取引は増加傾向にありました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、ニーズが高まるセキュリティ関連事業への継続的な取り組みに注力してまいりました。また、新規顧客の開拓、ソリューション営業、ストックビジネスの強化、DX関連需要への対応や取引先とのアライアンス強化、顧客開拓と関係強化に向けたCRM活用等を図ることにより、事業の収益力の継続的な向上に取り組んでまいりましたが、中国・上海でのロックダウンによるサプライチェーンの混乱や半導体を中心とする部品不足、原材料価格の上昇の影響などにより、法人市場での需要と供給が一致しないことなどでパソコン需要の後退が進み売上は減少いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,579,059千円（前年同四半期比47.9%減）、経常利益は69,017千円（前年同四半期比32.4%減）、特別損失329,598千円（過年度決算訂正関連費用）を計上したこともあり、親会社株主に帰属する四半期純損失は294,904千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益87,162千円）となりました。

なお、売上高につきましては「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結累計期間の売上高が5,067,064千円減少しております。

各セグメント別の営業の概要は次のとおりであります。

##### ITサービス事業

法人向けコンピュータ市場においては、新型コロナウイルス感染症の影響から企業活動の抑制傾向は続いているものの、一部の業種において設備投資に持ち直しの動きも見られましたが、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念され、先行き不透明な状況が続きました。また、国内景気の先行き不透明感から新規顧客向け活動の回復に遅れが見られることに加え、世界規模の半導体供給不足などの問題も継続しており、部材不足による顧客ニーズのあるパソコンが提供できない状況はいまだ解消されず、法人市場は大変厳しい状況が続いております。

当社グループにおきましては、新規顧客の開拓と関係強化、ストックビジネスの強化、取引先とのアライアンス強化、インサイドセールス機能の強化などに注力してまいりました。具体的には、顧客に対してサイバーセキュリティソリューションへの営業活動を強化したことで、エンドポイントセキュリティ販売における売上高が昨年同期比10%増となった他、新規サービスとしてのセキュリティ診断やセキュリティ教育事業においては、売上高が昨年同期比200%増と大幅に伸ばいたしました。また、ストックビジネスの強化を図るためビジネス向けコミュニケーションツールを拡販することで、当社が提供するSaaS提供プラットフォームである「さーす丸」の売上高が昨年同期比150%増となりました。加えて、取引先とのアライアンスを活かし、PCを中心とした売れ筋商材の確保も積極的に行いました。しかしながら、中国・上海でのロックダウンによるサプライチェーンの混乱や半導体を中心とする部品不足の影響などにより、顧客のご要望に一部お応えすることができないものもあり、売上減少分を補うことはできませんでした。

その結果、「収益認識に関する会計基準」適用後の売上高は5,023,975千円（前年同四半期比15.5%減）、営業利益は15,070千円（前年同四半期比64.3%減）となりました。なお、売上高につきましては「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結累計期間の売上高が683,607千円減少しております。

#### アスクルエージェント事業

当社は既存取引先の稼働促進や新規取引先を拡大していくために、ITを活用したWEB商談等で営業活動を強化した結果、事務用品や日用品の販売が好調に推移したことにより、売上高は堅調に推移しました。一方で人件費等の一部の経費が増加いたしました。

その結果、売上高は506,485千円（前年同四半期比89.3%減）、営業利益は49,685千円（前年同四半期比28.5%減）となりました。なお、売上高につきましては「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結累計期間の売上高が4,383,456千円減少しております。

#### その他

当社グループは、就労移行支援事業及び放課後等デイサービス事業を3施設運営しており、職業訓練・就労支援に関するサービス及び児童・生徒の発達支援に関するサービスの提供を行っております。

その結果、「収益認識に関する会計基準」適用後の売上高は48,598千円（前年同四半期比9.6%増）、営業利益は1,861千円（前年同四半期は、営業損失430千円）となりました。

(b)財政状態の分析

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて58,114千円減少し、6,774,953千円となりました。

流動資産の残高は6,322,076千円となり、前連結会計年度末と比べ100,637千円の減少となりました。これは主に「商品」が増加したものの「現金及び預金」が減少したことによるものです。

固定資産の残高は452,876千円となり、前連結会計年度末と比べ42,523千円の増加となりました。これは主に「無形固定資産」が増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて280,438千円増加し、3,750,480千円となりました。

流動負債の残高は3,317,643千円となり、前連結会計年度末と比べ357,869千円の増加となりました。これは主に「買掛金」及び「未払金」の増加によるものです。

固定負債の残高は432,837千円となり、前連結会計年度末と比べ77,430千円の減少となりました。これは主に「長期借入金」の減少によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は「利益剰余金」の減少により、前連結会計年度末と比べ、338,552千円減少し、3,024,472千円となりました。この結果、自己資本比率は43.8%となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、2,542,269千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は266,765千円(前年同四半期比390,033千円の資金減)となりました。

これは主に、「過年度決算訂正関連費用」の計上があったものの、「税金等調整前当期純損失」の計上及び「棚卸資産の増減額」の増加があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は92,366千円(前年同四半期比75,205千円の資金減)となりました。これは主に、「事業譲受による支出」が増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は125,869千円(前年同四半期比502,647千円の資金減)となりました。これは主に、「株式の発行による収入」及び「短期借入金の増減額」が減少したことによるものです。

(3)経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4)経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 1 事業等のリスク」をご参照ください。

(5)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第2四半期連結累計期間において、当社が定めている経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について重要な変更はありません。

(6)優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上課題について重要な変更はありません。

(7)研究開発活動

該当事項はありません。

(8)生産、受注及び販売の実績

当社グループは、法人向けコンピュータ及び周辺機器の販売を中心に事業を営んでおり、生産実績及び受注実績は記載しておりません。

商品仕入実績

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	前年同四半期比(%)
ITサービス事業 (千円)	4,281,347	87.1
アスクルエージェント事業 (千円)	-	-
その他 (千円)	39,226	99.6
合計 (千円)	4,320,573	47.2

販売実績

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	前年同四半期比(%)
ITサービス事業 (千円)	5,023,975	84.5
アスクルエージェント事業 (千円)	506,485	10.7
その他 (千円)	48,598	109.6
合計 (千円)	5,579,059	52.1

(9)資本の財源及び資金の流動性に係る情報

資金需要

当社グループの運転資金のうち主なものは、販売及び在庫のための商品購入並びに販売費及び一般管理費によるものであります。

資本の財源

当社グループにおける運転資金につきましては、内部資金及び金融機関からの借入等によって調達しております。なお、借入金の返済に関しましては、資金の状況を勘案しつつ、計画的に返済する方針であります。

(10)経営者の問題認識と今後の方針について

現在の営業環境は、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されているものの、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要があるものと認識しております。

当社グループの経営陣は、これまで事業に従事してきた経験や、現在入手可能な情報に基づき、最善の経営判断を行っており、引き続き積極的な営業活動を展開すると共に、業務の効率化を推し進めてまいります。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,400,000
計	26,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,832,900	9,832,900	東京証券取引所 プライム市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	9,832,900	9,832,900	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2022年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日(注)	5,200	9,832,900	478	569,449	478	519,461

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

2022年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ララコーポレーション株式会社	東京都豊島区千早3丁目27-2	2,357,000	23.97
玉田 宏一	千葉県千葉市中央区	1,309,700	13.32
エプソン販売株式会社	東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー29階	700,000	7.12
遠藤 孝	東京都八王子市	544,900	5.54
株式会社ミートプランニング	群馬県高崎市倉賀野町3199-1	404,000	4.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	393,100	3.99
関根 俊一	東京都豊島区	242,100	2.46
ハイパー従業員持株会	東京都中央区日本橋堀留町2丁目9-6	230,900	2.34
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	189,900	1.93
株式会社庚伸	東京都中央区八丁堀2丁目26-9	180,000	1.83
計	-	6,551,600	66.64

(注) 1 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2 株式会社日本カストディ銀行(信託口)には、役員向け株式交付信託による保有株式130,000株含まれております。

(6)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,827,200	98,272	-
単元未満株式	普通株式 3,300	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,832,900	-	-
総株主の議決権	-	98,272	-

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、役員向け株式交付信託に係る信託口が保有する当社株式130,000株(議決権1,300個)及び証券保管振替機構名義の株式1,200株(議決権12個)が含まれております。  
2 単元未満株式数には当社所有の自己株式8株が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ハイパー	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号	2,400	-	2,400	0.02
計	-	2,400	-	2,400	0.02

- (注) 1 上記の他に単元未満株式として自己株式を8株所有しております。  
2 役員向け株式交付信託に係る信託口が保有する当社株式130,000株については、上記自己株式等に含まれておりません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1)新任役員

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)	就任年月日
監査役	堀川 裕美	1979年5月10日生	2006年11月 司法試験合格 司法修習開始 2007年12月 弁護士登録(東京弁護士会) 日比谷見附事務所 入所(アソシエイト) 2008年4月 東京弁護士会 労働法制特別委員会 委員(現任) 2011年4月 東京都労働相談情報センター 相談員 2013年1月 日比谷見附事務所 パートナー就任(現任) 2020年4月 東京労働局 東京紛争調整委員会 委員(現任) 2021年4月 東京都労働相談情報センター 相談員(現任) 2022年6月 当社監査役就任(現任)	2025年12月期に係る定時株主総会の終結の時まで	-	2022年6月21日

(2)退任役員

役職名	氏名	退任年月日
監査役	谷 真人	2022年6月21日

(3)異動後の役員の男女別人数および女性の比率

男性8名 女性3名(役員のうち女性の比率27.3%)

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,041,491	2,555,908
受取手形及び売掛金	2,662,249	2,590,430
電子記録債権	114,454	145,753
商品	429,649	739,784
仕掛品	46,587	105,002
その他	134,440	191,387
貸倒引当金	6,158	6,190
流動資産合計	6,422,714	6,322,076
固定資産		
有形固定資産	126,808	118,736
無形固定資産		
のれん	21,949	-
その他	46,775	115,079
無形固定資産合計	68,724	115,079
投資その他の資産		
投資有価証券	86,497	89,363
その他	206,644	207,736
貸倒引当金	78,322	78,038
投資その他の資産合計	214,819	219,061
固定資産合計	410,352	452,876
資産合計	6,833,067	6,774,953
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,479,021	2,709,928
1年内返済予定の長期借入金	160,800	160,800
リース債務	5,664	5,706
未払法人税等	20,744	33,954
賞与引当金	70,844	73,457
その他	222,699	333,796
流動負債合計	2,959,773	3,317,643
固定負債		
長期借入金	398,000	317,600
退職給付に係る負債	25,138	26,288
役員株式給付引当金	23,698	28,187
リース債務	23,311	20,442
その他	40,120	40,319
固定負債合計	510,268	432,837
負債合計	3,470,041	3,750,480

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	567,326	569,449
資本剰余金	565,253	567,376
利益剰余金	2,221,939	1,882,821
自己株式	59,803	59,803
株主資本合計	3,294,715	2,959,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,721	4,576
その他の包括利益累計額合計	2,721	4,576
新株予約権	65,588	60,052
純資産合計	3,363,025	3,024,472
負債純資産合計	6,833,067	6,774,953

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	10,706,074	5,579,059
売上原価	9,186,861	4,101,654
売上総利益	1,519,212	1,477,405
販売費及び一般管理費	1,407,905	1,410,787
営業利益	111,307	66,617
営業外収益		
受取利息	377	185
受取配当金	447	476
広告料収入	1,637	1,200
その他	1,399	2,714
営業外収益合計	3,862	4,575
営業外費用		
支払利息	2,047	1,542
株式交付費	9,124	-
その他	1,923	633
営業外費用合計	13,096	2,176
経常利益	102,073	69,017
特別利益		
新株予約権戻入益	538	1,308
特別利益合計	538	1,308
特別損失		
過年度決算訂正関連費用	-	329,598
特別損失合計	-	329,598
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	102,611	259,272
法人税、住民税及び事業税	32,461	38,320
法人税等調整額	17,012	2,689
法人税等合計	15,448	35,631
四半期純利益又は四半期純損失( )	87,162	294,904
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	87,162	294,904

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	87,162	294,904
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	437	1,855
その他の包括利益合計	437	1,855
四半期包括利益	87,599	293,049
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	87,599	293,049

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	102,611	259,272
減価償却費	37,374	31,223
のれん償却額	21,949	21,949
貸倒引当金の増減額( は減少)	1,594	16
賞与引当金の増減額( は減少)	3,009	2,613
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	529	1,150
役員株式給付引当金の増減額( は減少)	4,489	4,489
受取利息及び受取配当金	824	661
支払利息	2,047	1,542
固定資産除却損	681	417
株式交付費	9,124	-
新株予約権戻入益	538	1,308
過年度決算訂正関連費用	-	329,598
売上債権の増減額( は増加)	47,269	40,535
棚卸資産の増減額( は増加)	111,587	368,690
仕入債務の増減額( は減少)	163,374	230,907
未払又は未収消費税等の増減額	5,149	71,296
その他	27,615	37,940
小計	164,100	74,727
利息及び配当金の受取額	612	663
利息の支払額	2,004	1,514
過年度決算訂正関連費用の支払額	-	205,954
法人税等の還付額	-	44,789
法人税等の支払額	39,440	30,020
営業活動によるキャッシュ・フロー	123,268	266,765
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	16,627	7,745
無形固定資産の取得による支出	5,426	4,682
投資有価証券の売却による収入	2,220	-
敷金及び保証金の回収による収入	5,669	227
事業譲受による支出	2,600	2 80,000
その他	396	166
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,161	92,366
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	200,000	-
長期借入金の返済による支出	131,100	80,400
株式の発行による収入	347,462	-
ストックオプションの行使による収入	1,185	18
配当金の支払額	40,769	42,660
リース債務の返済による支出	-	2,827
財務活動によるキャッシュ・フロー	376,778	125,869
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	482,884	485,001
現金及び現金同等物の期首残高	3,065,362	3,027,270
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,548,247	1 2,542,269

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、保守サービスやソフトウェアライセンスの一部の販売による収益においては、代理人取引と認識しております。また、アスクルエージェント事業の収益においても代理人取引と認識しております。顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、従来、総額で収益を認識しておりましたが、純額で収益を認識することとしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は5,067,064千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(役員に対する株式報酬制度について)

当社は、当社取締役(社外取締役を除く。以下同じ。)の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、「役員向け株式交付信託」を導入しております。

イ．取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託(以下「本信託」という。)が当社株式を取得し、当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役にに対して交付される株式報酬制度です。

また、本制度は2019年3月28日から2025年3月の定時株主総会終結の日までの6年間の間に在任する当社取締役にに対して当社株式が交付されます。

なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

ロ．会計処理

株式交付信託については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。

ハ．信託が保有する自己株式

株式交付信託が保有する当社株式は、連結貸借対照表の純資産の部に自己株式として表示しており、前連結会計年度末における帳簿価額59,670千円、株式数は130,000株、当第2四半期連結会計期間末における帳簿価額は59,670千円、株式数は130,000株であります。

(過年度決算訂正関連費用)

前連結会計年度の決算業務を進めるなかで、当社のオフィスデザインの役務提供取引において、不適切な会計処理が行われていたことが判明したため、特別調査委員会を設置し、調査を行ってまいりました。これに伴う特別調査委員会による調査費用及び過年度決算の訂正に要する費用を「過年度決算訂正関連費用」として特別損失に計上しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
給料手当	459,385千円	465,136千円
賞与引当金繰入額	60,183	54,531
役員株式給付引当金繰入額	4,489	4,489
販売手数料	306,451	314,533
貸倒引当金繰入額	1,594	16

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
現金及び預金勘定	3,563,049千円	2,555,908千円
預入期間が3か月を超える定期預金等	10,000	10,000
株式交付信託預金	4,802	3,639
現金及び現金同等物	3,548,247	2,542,269

2 事業譲受により増加した資産及び負債の主な内訳

当第2四半期連結累計期間に事業譲受により増加した資産は無形固定資産の顧客関係資産(80,000千円)であります。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年3月23日 定時株主総会	普通株式	41,062	4.50	2020年12月31日	2021年3月24日	利益剰余金

(注)2021年3月23日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員株式交付信託口が保有する当社株式に対する配当金585千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年8月10日 取締役会	普通株式	44,145	4.50	2021年6月30日	2021年9月1日	利益剰余金

(注)2021年8月10日取締役会決議による配当金の総額には、役員株式交付信託口が保有する当社株式に対する配当金585千円が含まれております。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年6月28日付で、エプソン販売株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が175,040千円、資本準備金が175,040千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が566,910千円、資本準備金が516,922千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	44,213	4.50	2022年4月15日	2022年6月22日	利益剰余金

(注)2022年6月21日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員株式交付信託口が保有する当社株式に対する配当金585千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年8月10日 取締役会	普通株式	44,237	4.50	2022年6月30日	2022年9月1日	利益剰余金

(注)2022年8月10日取締役会決議による配当金の総額には、役員株式交付信託口が保有する当社株式に対する配当金585千円が含まれております。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)1
	ITサービ ス事業	アスクルエ ージェント 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,947,166	4,714,581	10,661,748	44,325	10,706,074	-	10,706,074
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	5,947,166	4,714,581	10,661,748	44,325	10,706,074	-	10,706,074
セグメント利益又は損失 ( )	42,233	69,504	111,737	430	111,307	-	111,307

(注)1 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業及び放課後等デイサービス事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)1
	ITサービ ス事業	アスクルエ ージェント 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,023,975	506,485	5,530,460	48,598	5,579,059	-	5,579,059
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	5,023,975	506,485	5,530,460	48,598	5,579,059	-	5,579,059
セグメント利益	15,070	49,685	64,756	1,861	66,617	-	66,617

(注)1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業及び放課後等デイサービス事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識に関する会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「ITサービス事業」の売上高は683,607千円、「アスクルエージェント事業」の売上高は4,383,456千円それぞれ減少しております。なお、セグメント利益に与える影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ITサービス事業	アスクルエー ジェント事業	計		
一定時点で移転される財	5,016,295	506,485	5,522,780	48,598	5,571,379
一定の期間にわたり移転される サービス	7,680	-	7,680	-	7,680
顧客との契約から生じる収益	5,023,975	506,485	5,530,460	48,598	5,579,059
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	5,023,975	506,485	5,530,460	48,598	5,579,059

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、就労移行支援事業及び放課後等  
デイサービス事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1  
株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四 半期純損失金額( )	9円67銭	30円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会 社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千 円)	87,162	294,904
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利 益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金 額( )(千円)	87,162	294,904
普通株式の期中平均株式数(株)	9,014,196	9,691,975
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	9円44銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	222,874	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも の概要	2018年9月12日開催の取締役会 の決議による株式会社ハイパー 第11回新株予約権(普通株式 100,800株)	-

(注) 1 株主資本において自己株式に計上されている役員向け株式交付信託に残存する自己株式は、1株当たり四半期  
純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に  
含めております。

なお、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )の算定上、控除した当該自己株式の  
期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間130,000株、当第2四半期連結累計期間130,000株であります。

2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、1株当たり四半期純損失である  
ため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(事業の譲受)

当社は、2022年7月27日開催の取締役会において、株式会社No.1のアスクル代理店事業を譲り受けることを決議し、同日、事業譲渡契約を締結いたしました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び事業の内容

譲受先企業の名称 株式会社No.1 (以下、「No.1」)

事業の内容 アスクル代理店事業

(2) 譲受部門の売上高

売上高 1,654百万円(2022年2月期 収益認識基準適用前)

(3) 事業譲受の理由

当社は、主要事業であるITサービス事業によって取引を開始したユーザーを中心に、アスクル株式会社が行っている法人向け通信販売「ASKUL」の代理店事業(以下、「アスクル代理店」という)を展開し、オフィス関連商品の提供を行っています。

No.1は、中小企業向けソリューション営業に特化した事業を全国に展開、また、当社と同様にアスクル代理店も積極的に行っております。同社のアスクル代理店部門を譲受することにより、アスクルの顧客数増加による事業規模拡大となるとともに、当社が行う他事業とのシナジー効果による業務効率の向上が図れるものと判断し、同社の事業を譲り受けることといたしました。

(4) 事業譲受日

2022年8月31日

(5) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

2. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	300百万円
取得原価		300百万円

## 2【その他】

2022年8月10日開催の取締役会において、2022年6月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

配当金の総額.....	44,237千円
1株当たりの金額.....	4円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日.....	2022年9月1日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月10日

株式会社ハイパー  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野 田 裕 一

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハイパーの2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハイパー及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績及び第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。